

写真資料が語るもの

——公主嶺小学校同窓会写真アルバムより——

解題

大石 茜

本稿で紹介する写真アルバムの目録は、アルバムに綴じられた公主嶺の教育関係の写真（以下、写真アルバムと略称）の目録で、公主嶺小学校同窓会事務局の土屋洗（ひろ）子さんからご寄贈いただいた。公主嶺小学校同窓会の歴史や、写真を収集した経緯については、土屋さんご自身が本稿に解説を書いてくださっている。ここでは、寄贈に至る経緯及び、これらの写真の資料的価値について解説していく。



写真1 公主嶺小学校37回生同期会にて、左から土屋洗子さん・大石・甲賀・菅野、2018年5月19日撮影

1 資料と出会った経緯

資料をご寄贈くださった土屋洗子さんには、土屋さんの女学校の同級生である竹内テル子さんからの紹介でお会いすることとなった。2016年11月に筆者は、回想録『茜雲-敗戦から引き揚げまでの一年二ヶ月の記録-』（2016年）を執筆した竹内テル子さん（1932年12月生）を訪ねインタビューをおこなった。竹内さんは遼陽小学校卒業後、新京敷島高女に進学し、女学校1年の夏に敗戦を迎え、引揚げ前に父親を亡くしたことにより、戦後多くの苦勞をなされた方である。竹内さんから紹介していただいたのが、新京敷島高女の同級生であり、現在公主嶺小学校同窓会事務局を務める土屋洗子さん（1933年1月生）だった。土屋さんは、満洲での経験についての語り部の活動や、同窓会事務局の仕事をなさっており、研究・調査の助けになるだろうという竹内さんのご配慮により、幸運にも土屋さんと知り合うこととなったのである。

2017年1月に筆者は土屋さんのご自宅を訪ね、満洲での経験についてお話をうかがった。はじめは筆者の個人的な研究活動であったが、土屋さんは公主嶺小学校や公主嶺農事試験場などの公主嶺の歴史について非常に詳しく、研究会として土屋さんに引き続きインタビューをさせていただくこととなった。これまで9回にわたりご自宅でインタビューを行った。さらに、年に一度開催されている公主嶺小学校同窓会の懇親会や37回生同期会にも参加させていただいた。何度もインタビューを重ねる中、本研究会の活動にご賛同くださり、本稿で紹介する写真アルバムを含め様々な資料をご提供いただいた。これらの資料は研究会で整理し、いずれは公開できるようにと検討している。また、土屋さんの保管する資料の一つであるお母様の日記は、今後研究会で出版する予定である。

2 写真の資料的価値

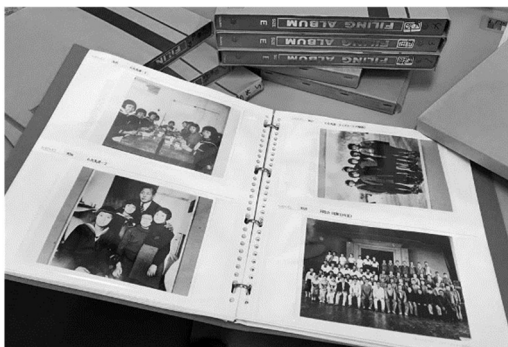


写真2 ご寄贈いただいた写真アルバムの一部

この度ご寄贈いただいた写真アルバムは、土屋さんの解説にあるように、公主嶺小学校同窓会が会員から収集した写真のうち、幼稚園や小学校といった教育施設に関連するものを整理・焼き直しし、アルバムに綴じたものである。同窓会の発行した写真集『満洲公主嶺—その過去と現在—』(以下、写真集と略称)に収録しきれなかった多くの写真がまとめられている。出版された写真集には、家屋や街の写真も掲載されているが、この写真アルバムには、人物の写真のみが収録されている。写真の焼き増しを希望する会員に販売することが目的だったからである。さらに同窓会事務局では写真アルバムの目録を作成し、撮影年や撮影場所、提供者等を記録した。この目録は写真アルバムの全体像がつかめる資料であるため、本稿に掲載し紹介することとした。

公主嶺にあった柳写真館の館主・高柳祐之助さんの子息である今井律雄さん(28回生)は家業を継ぎ、引揚げ後は都内で写真館を営んでいた⁽¹⁾。土屋さんと共に、収集した写真のサイズを揃えアルバムに収録し、会員からの焼き増しの注文に対応したのがこの今井さんだった。同窓会に写真館の経営者がいたことは、写真を同窓会で管理する上で非常に恵まれたことだった。

写真アルバムの内容は、クラスごとの集合写真や、学校でのスナップ写真であり、その数は442枚にのぼる。これだけの数の写真を収集し、アルバムに整理し

ている同窓会は稀であろう。公主嶺小学校の歴史を追うことのできる貴重な写真資料である。子どもや教員の服装・髪型の変化や、写真の撮影場所の変遷といった写真資料を活かした研究の可能性が開かれている。

またこれらの写真は、公主嶺という町の特徴をよく表している。公主嶺は小さな町で、幼稚園と小学校は一枚のみであり、中学校や女学校は一枚もなかった。学校関連の同窓会は、学校ごとにそれぞれ組織する場合が多い。しかし小学校が一つしかなかったため、同窓会も一つである。そのため学校に関わる資料が全てこの公主嶺小学校同窓会に集まった。小さな町であるがゆえに、戦禍を免れた写真が散在せず、写真集及び写真アルバムに収録され得たと言えよう。

公主嶺の町に写真館が多かった点も指摘しておく必要があるだろう。『満洲公主嶺—過ぎし40年の記録—』には「軍隊の出入りする写真屋も古くからの柳写真館、さくら写真館に、坂田、森脇、西、串崎写真館と、あの狭い町に六軒もできた」とある⁽²⁾。公主嶺には旅団司令部があったほか、歩兵、野砲兵、工兵、騎兵（のちに戦車）の大隊・中隊が配備され、また陸軍の学校があったことでも知られている。公主嶺の商店は、これらの陸軍関係の需要に応えるかたちで発展していった側面をもっており、写真館もその一つであった。学校関連の写真をどの写真館が担当していたのかは、定かではない。しかし

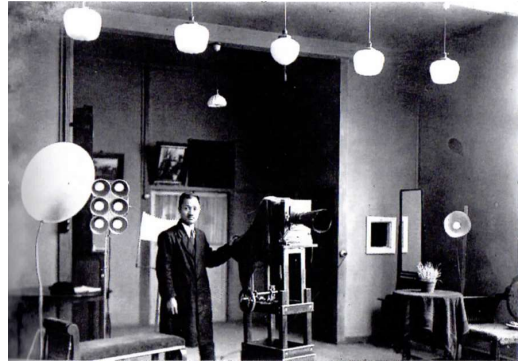


写真3 柳写真館（公主嶺小学校同窓会編『満洲公主嶺—その過去と現在—』1988年、94頁）

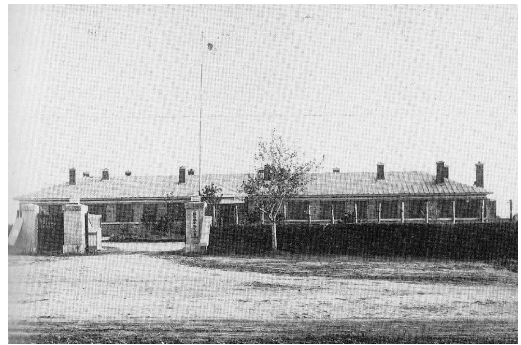


写真4 旅団司令部（公主嶺小学校同窓会編『満洲公主嶺—その過去と現在—』1988年、108頁）

ながら、多くの写真館があり、多くの写真が撮られていたからこそ、今なおこれだけの数の写真が残っている。公主嶺小学校同窓会でお会いした細谷和子さん（31回生、1926年12月生）は、母親が新しい着物を仕立てるたびに、それを着てさくら写真館で記念撮影をしていたという⁽³⁾。公主嶺の人々の中には、写真館を身近に感じる生活をしていた人もいたようである。

またスナップ写真からは、日常的にカメラを愛用していた家庭が一定数あったことがうかがえる。土屋さんの家庭でもお母様がカメラ好きで、大連にカメラを買いに行ったことを覚えているという。写真アルバムのスナップ写真及び、写真集の家屋や街の写真には、個人によって撮影されたものが数多く含まれている。人々が日ごろからカメラを使用していたのであろう。

満洲から引揚げの際、写真は持ち帰れなかったと言われている。写真を同窓会に提供できた方々の多くは、敗戦前に内地へ戻った方、もしくは敗戦前に内地の親戚等に写真を送っていた方だと思われる。目録の写真提供者の一覧を参考に、複数の写真を提供していた方の所在を土屋さんにうかがったが、すでに他界された方も多く、写真を提供できた経緯はよくわからなかった。また目録からは、前述の柳写真館を継いだ今井律雄さんが、多数の写真を提供していたことも確認できる。今井さんの弟である高柳衛さんによれば、1946年8月に引揚げた際に、写真を荷物に隠して持ち帰ったという⁽⁴⁾。柳写真館に残された貴重な写真は、ご家族の手によって守られ、今日まで受け継がれることとなった。

写真館やカメラという文化の根づいた公主嶺で撮影された写真が、戦禍を逃れ、公主嶺小学校同窓会に集まった。数百枚にのぼる写真を整理し、焼き直すノウハウが同窓会にあったことで、こうしてまとまった写真アルバムが完成した。公主嶺小学校同窓会だからこそ残すことのできた貴重な資料と言えるだろう。

⁽¹⁾ 今井さんの弟である高柳衛さん（1931年3月生、35回生）によれば、父・高柳祐之助さんは衛さんが小学生のときに他界しており、兄である今井律雄さんが家業を継いでいた。敗戦から引揚げまでの約1年間、今井さんは他の写真館の方々と共同で写真館の経営を続けていた。2018年10月5日筆者による電話でのインタビュー。

⁽²⁾ 公主嶺小学校同窓会編『満洲公主嶺-過ぎし40年の記録-』1987年、299頁。

⁽³⁾ 2017年11月22日筆者によるご自宅でのインタビュー。写真館で撮影した写真は今も細谷さんの手元に残っている。細谷さんのお父様は軍人だった。

⁽⁴⁾ 2018年10月5日筆者による電話でのインタビュー。

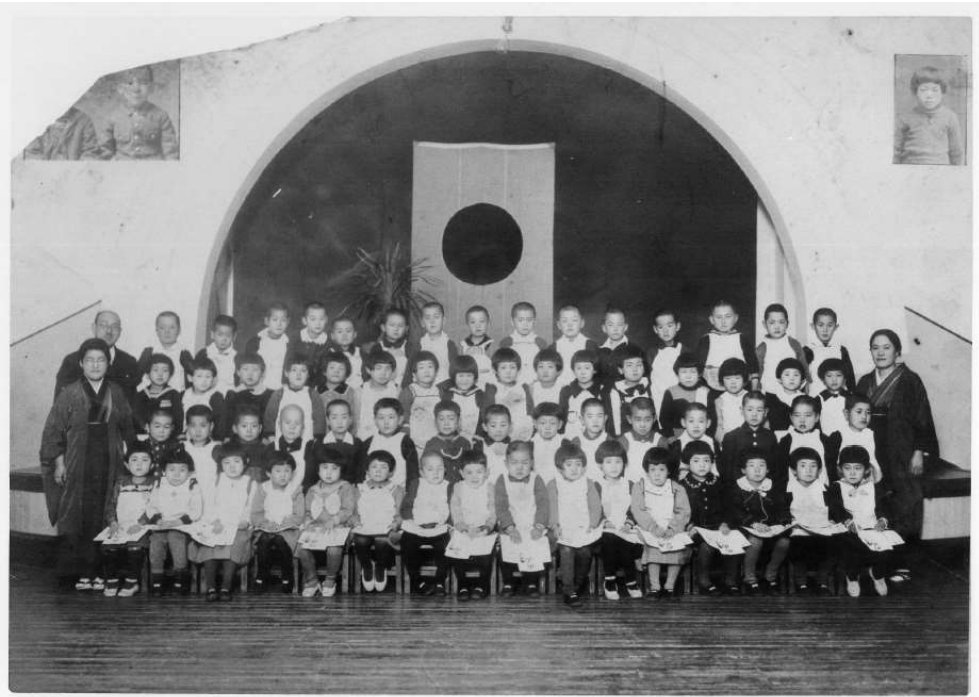


写真5 37回生幼稚園年少組卒園式（1938年3月、写真アルバムより）



写真6 入学式後の1年岩森学級（1939年4月、写真アルバムより）